

2026年3月31日  
商工中金

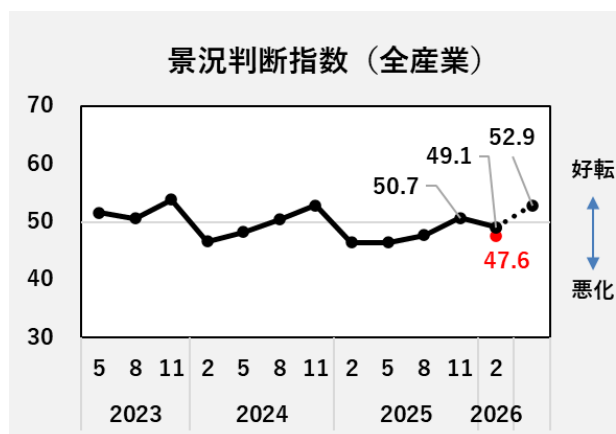
## 商工中金景況調査（2026年2月調査・定例分）の公表について

株式会社商工組合中央金庫（本社：東京都中央区、代表取締役社長：関根 正裕、以下「商工中金」）は概ね四半期に一度、中小企業の景況感などの実態把握のため景況調査を実施しています。今般、2026年2月調査のうち毎回共通の質問項目（定例分）の結果を公表しました。

### <2026年2月の景況感>

2月の景況判断指数はわずかに「悪化」超となったが、先行きは「好転」の見通し

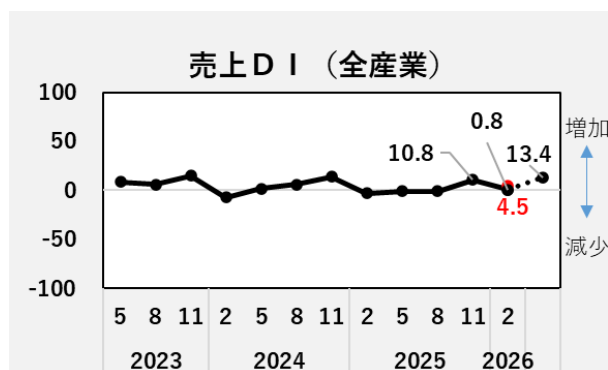
- ・ 2月の景況判断指数は49.1と、わずかに「悪化」超となりました。
- ・ 業種別にみると、中国人観光客の減少などの影響を背景に、飲食・宿泊業で指数の低下が目立ちました。
- ・ 一方、先行きの景況判断指数は「好転」超となり、先行きに対する見方は改善しています。



### <2026年2月の業況判断>

【売上】 製造業、非製造業ともに指数が低下

- ・ 2月の売上DIは、製造業・非製造業ともに前月から低下しました。
- ・ 前回は全業種で「増加」超となっていたが、今回は8業種が「減少」超へと転じています。
- ・ また、本調査の自由記載欄では、取適法施行による資金繰りへの影響、価格転嫁の状況、国際関係を巡る先行き不透明感などを指摘する声が寄せられました。



詳細は本編資料 ([こちら](#)) をご覧ください。